

秋の沢旅 南アルプス白州編～濁川本谷～

【報告者】H田

【日時】2019年9月28日

【天候】くもり

【参加者】H田 ほか 会員外4名

《コースタイム》

6:30 駐車場ゲート→7:00 入渓地点→12:30 日向八丁尾根登山道→14:38 鞍掛山分岐→14:38 日向山
→16:09 駐車場ゲート

《 報 告 》

最高の幕営地は、探してもなかなか見つからないもの。アクセス良好、豊富な薪、満点の星空、南アルプスの天然水、入渓地そば、そして無料。最高の条件がここに揃う。

今年2度目に訪れたこの場所から、前は笹ノ沢を遡行し雨乞岳登山道を降りたが、今回は濁川本谷を遡行し日向山を経由して降りる計画とした。

6時半に駐車場を発ち、笹ノ沢出合いを過ぎると巨大堰堤が立ちはだかる。駐車場からも見えたが、正面にそびえる風化した花崗岩の白いガレは、特徴的で見応えある光景だ。これを越えると日向出合いがあり、さらに堰堤を2つほど越えて、遡行スタートとなる。

この沢の核心は2段35m滝。一見すると、水流の左側を容易に登れそうだが、触れてみると岩が脆い。リーダーが先行し、上からロープを出してもらおう。下段は難なく登れたが、上段は脆く、草や枝を掴みながらジワジワ登った。

その先を少し歩くと、巨大チョックストーンがお目見えする。衝撃的な大きさで、一同足が止まる。写真では伝わらないと思うので残念だが、直径10mはあろうかという代物だ。そこから先は、ゴルジュの蓮瀑帯となる。崩壊が進んでいるらしく、両側の壁が崩れているところもある。かつてはもっと狭く切り立っていたのだろうか。小滝が連続するが脆いところが多いため、それぞれが先行者の落石に気をつけつつ、自らも石を落としながら歩いた。

ゴルジュを抜けると、今度はナメへと溪相が一変する。さほど広くはないが、さっきまでの崩壊が嘘のように穏やかなナメ床とナメ滝が連続する。この辺りから、徐々に霧に包まれ始めた。見通しが悪い視界の中で、目の前に突如不自然な木が現れる。どう見ても逆さまに墮ちて地面に突き刺さっているようにしか見えない。どうやって…。ナニコレ珍百景モノだ。

その少し先で50mナメ滝が現れる。これは登れないので右側から巻いた。その後、霧がどんどん濃くなっていき、在るはずの滝も目の前まで行かないと見えないほどになった。長い滝は上部まで見通せないで、踏み跡を頼りに巻道を探しながら登り、針葉樹の林を抜けて登山道へ抜けた。

日向八丁尾根登山道に出てから日向山までは、約2時間。道のりは長いが、丁寧に間伐された樹林帯はキノコの宝庫で、ビジュアル系キノコから美味しいキノコまで、色々出てきてくれた。インスタ映えすることで有名な日向山は、あいにくの霧模様。晴れていれば、ここから甲斐駒ヶ岳が正面に見え、そこに向かって竜のように立ち昇る黄蓮谷が見えると聞いて楽しみにしていただけに、残念だった。人気の山だけあって、あいにくの天気ではあったが、何組かの登山者に会い、声を掛け合った。

日向山の山頂からスタート地点へ向かうルートは、地図には載っていなかったが、かつては登山道として使われていたのか、古い標識や赤テープが所々にあり、踏み跡も割と残っていた。

今回も、とても好い沢だった。この最高の幕営地からアクセスできる沢は、残りあと一つ。来年以降になると思うが、今から楽しみでなりません。



巨大堰堤



日向沢出合い



正面のガレとナメ床



2段35m滝



巨大チョックストーン



被瀑中



崩壊が進む連瀑ゴルジュ帯



逆さまの倒木。斬新…!



50m ナメ滝



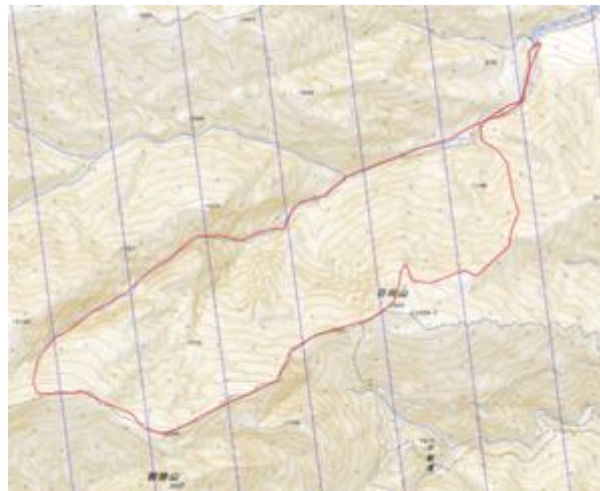
日向山の雁ヶ原



日向山 1,660m



岩場に咲くオオビランジ



マツタケモドキ



おやおや?



マツタケみつけ～